



編集後記

校長 小林 理人

校舎の建て替えに向けての様々な取組が始まっています。5年生は二小の桜を残すために苗づくり(接ぎ木)を行い、先日、お世話になっている桜守の方にその状態を見ていただきました。子供たちの想いが桜に伝わったのか予想以上に状態が良く、桜の苗が順調に育っているようです。

また、校庭の芝生を残すために3年生が育てている芝生の畑も枯れたように見える葉の下にしっかりと根が張り、春の芽吹き準備をしています。新しくなる学校に二小の良さや伝統を残すための取組はしっかりと引き継ぐことができそうです。そして、校舎の建て替えに向けての取組と合わせて進めてきた創立70周年記念事業もまもなくゴールを迎えます。

先日、子供たちの想いが詰まった記念誌が完成しました。そして、その記念誌を開いた時に、編集を担当した職員が思わず言った言葉が心に残っています。

「校長先生、すごいですね。この本には何一つ手を抜いたところがありません。子供たちもすごいです。先生たちもすごいです。」と満面の笑みを浮かべて話してくれたのです。

本校の記念誌は写真の撮影から、子供たちのメッセージの作成、各ページの構成等、全ての作業を子供たちと教職員が行いました。何度も見直し、気になる箇所があれば修正し時間と手間をかけて仕上げました。その全ての過程に関わってきた担当職員の「すごい」の言葉には重みがありました。

校長室にもどり改めて記念誌を開きました。校正の際、何度も見直した文章や写真が全く違うものに見えました。小さなスペースに精一杯丁寧に書いた子供たちの文字、たくさんの想いを短くまとめようと苦労して作った子供たちの文章、寄稿して下さった方の心のこもった温かい言葉、たくさんの写真から選んだ1枚1枚の写真・・・そのすべてがひとつになり輝いて見えました。そして、担当職員が言った「すごい」の意味が、何事にも心を込めて一生懸命に取り組む二小の子供たちのすごさ、子供たちのために最善を尽くす二小の教職員のすごさであることを理解し、「この本はすごい」という言葉が記念誌を担当した職員が読者に伝えたい想いを込めた編集後記だと感じました。

現在、28日(月)に予定されている記念誌の配布、そして、1日(火)の創立70周年を祝う会に向けての準備を進めています。祝う会のために各学年が撮影した動画は予定した時間を超えてしまいそうです。子供たちの感謝の気持ちや二小への想いを決められた時間で納めることができなかつたようです。そこで、会の担当者は予定の時間を少し延長して行う計画を立てています。このような柔軟な対応ができるようになったのもこの2年間の大きな成果なのかもしれません。

感染者数の増加もピークを過ぎ緩やかな減少傾向が続いているようですが、本校ではコロナ関連の欠席者が現在も30名を超える日が続いています。しかし、感染後の自宅待機期間が短くなったり、登校できない条件が少しずつ緩和されたりするなど学校生活への影響がより少なくなってきました。また、オンライン学習等の方法で学びの継続が可能になり、感染等による学習への影響も緩和されつつあります。

このような少しずつ変化する情勢や状況に柔軟に対応しながら、年度末にかけて予定されている行事を進めていきます。そして、1年間の成長を認め合ったり感謝の気持ちを伝え合ったりすることを大切にしながら、大きな節目となった1年を笑顔で締めくくりたいと思います。

